

○コロナではなく人からの批判が怖いのが皆さんの本音だと思いますが、人が人を裁く風潮を子どもたちに見せていることが恥ずかしい悲しいです。理解してくれる人だけわかっていてくれたらいいと思っているので、開き続けたいと願います。

○悪いことばかりに目が行きがちですが、こんなときだからこそ、何かできることがあるかもしれないと寄付の連絡をして下さったり、私たちの活動を応援して下さる声を届けて下さったり、皆さんの温かさに触れる機会は、以前以上に感じるが増えました。

○食を満たす以上に、人との関わりで心を満たす場であるので、対面にこだわって運営しています。パーティションをして、互いに顔が見える中で食事をしています。以前は、顔が見えない(みんなが同じ方向を向いて)状態で食べたこともありましたが、殺伐として、食の行為だけの場になりました。寄付支援をいただけることは、運営にあたり大きな励みです。これからもよろしくお願いたします。

○どのような状況においても子ども食堂を必要とする人が居ることを忘れてはいけません。

○近隣でコロナ感染者が発生した等で感染防止対策に不安があり、再開を躊躇しています。ワクチン等で早く終息に向かい、再開したいです。

○コロナで自粛を言われているため家族さんが参加を敬遠されるケースもあります。チラシを置くのが学校内なので少し気になる。

○これからも、感染症対策を講じながら実施することが当たり前の日常となることから、それぞれの地域性を活かして、できる範囲で工夫して進めていければと考えています。その中で子どもたちと感染症対策についての話もしていければと考えています。

○場所を開放して何とか子どもの居場所提供だけは続けていきたいです。

○現状子どもたちが感染症対策など率先して行ってくれているので、助かります。

○感染が出たときを思うとみんな参加する気になれない様子。町内の行事も学校行事も中止になっている中、なかなか開催は難しい。

------*---*---* Information *---*---*---*---*

<NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ作成の感染対策コンテンツ>

1)動画『こうすればできる withコロナ時代のこども食堂』

<https://musubie.org/news/2882/>



2)こども食堂向け 新型コロナウイルス感染症対策 安全・安心自己点検シート

3)感染症対策宣言マーク

4)こうすればできる！こども食堂感染症対策事例集

(2~4については、以下よりダウンロードできます)

<https://musubie.org/news/2889/>



*感染症に詳しい小児科医の監修のもと作成されました。

困りごと、悩み、
うれしかったこと、
何でもいつでも
ご連絡ください

子ども食堂つながりネットワークSHIGA 事務局
滋賀の縁創造実践センター 滋賀県社会福祉協議会

〒525-0072 草津市笠山七丁目8-138
TEL 077-567-3924 FAX 077-567-5160
E-mail shiga-hug@shigashakyo.jp



「子どもの笑顔はぐくみプロジェクト」HP
<http://shiga-hug.jp>

はぐくみプロジェクト 通信

特別号②

2021.3発行

手づくりパーティーで工夫



会場を飛び出してお散歩!

お弁当でつながっています



新型コロナウイルス感染症が流行し始めてから約1年がたちました。

人との距離をとらなければいけなくなったことで、改めて“つながり”の大切さに気づかされた1年でした。

このような状況においても「遊べる・学べる淡海子ども食堂」は138か所(2021.1月末時点)にまでひろがりました。

刻々と変わる状況のなかでも、何とかして子どもたちや地域とつながり続けようとするみなさんの力や想い、そしてもどかしさが日々伝わってきます。

子ども食堂がこれからも地域のあたたかな居場所であり続けられるように、“居場所”の持つチカラを、みなさんの想いとともひろく共有し、みんなで支え合いながら一歩でも前にすすめるように、子ども食堂の現状を発信します。



地域からいただいた食材をお弁当にして届けます

今日は絵本も持って帰ってね!



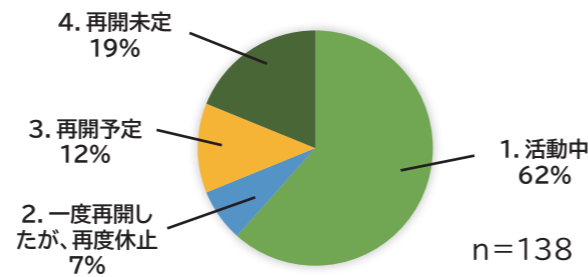
みんなで食べるとおいしいね♪

1 開催状況

「子ども食堂現状&困りごとアンケート」や聞き取り、各市町社協からの情報提供等によりカウントし、作成しています。

■ 各子ども食堂の開催状況(2021年2月時点)

- 1. 活動中 … 85か所
- 2. 一度再開したが、再度休止している … 10か所
- 3. 休止中(再開を検討中または再開予定) … 17ヶ所
- 4. 休止中(再開未定) … 26か所



2 現在の活動形態

※複数回答可

2021年2月2日~16日までに実施した「子ども食堂現状&困りごとアンケート」の結果をもとにまとめています。

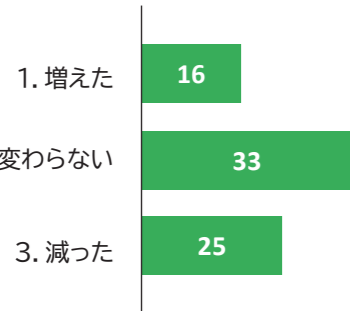
1. 居場所型(これまでどおりみんなで食べる)	22
2. 居場所型(食事はありだが、人数制限、屋外開催等、これまでとは違う形)	26
3. 居場所型(食事なし)	15
4. お弁当の配布(取りに来てもらう)	24
5. 食材の配布(取りに来てもらう)	14
6. 食材やお弁当を宅配(自宅等へお届け)	20
7. その他	6

〈具体的な内容〉

- 参加人数を制限している。
- 人数が多い時は屋外で開催。それ以外は従来通り学年をふたつに分けて開催している。
- 完全申し込み制で、分散できるように時間に幅をもって、その時間帯ならいつでもご飯を食べられる形にしている。
- ご寄付いただいたお菓子や食材を小分けして取りに来ていただいている。
- テイクアウト子ども食堂として居場所+お弁当の配布のハイブリット型で実施。
- 安否確認、困り事はないか、個別に連絡したり、訪問したりしている。等

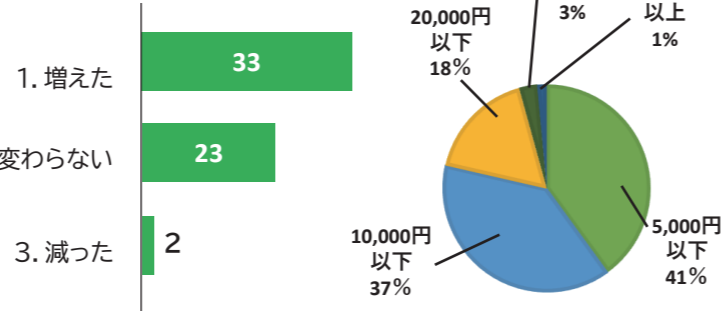
3 現在の活動頻度

■ コロナ以前と比べて



4 1回あたりの運営費

■ コロナ以前と比べて



(現在の開催1回あたりの運営費)

〈運営費増減の理由〉

1. 増えた

- 活動日数が増えたため
- 3密を避けるための、備品や用品の購入とコロナ対策のための消毒用品の購入のため
- 場所を借用するようになったため
- テイクアウト型として近隣の仕出し屋さん等にお弁当を依頼し配布しているため
- お弁当や箸、おしぼりを購入するようになったため

2. 変わらない

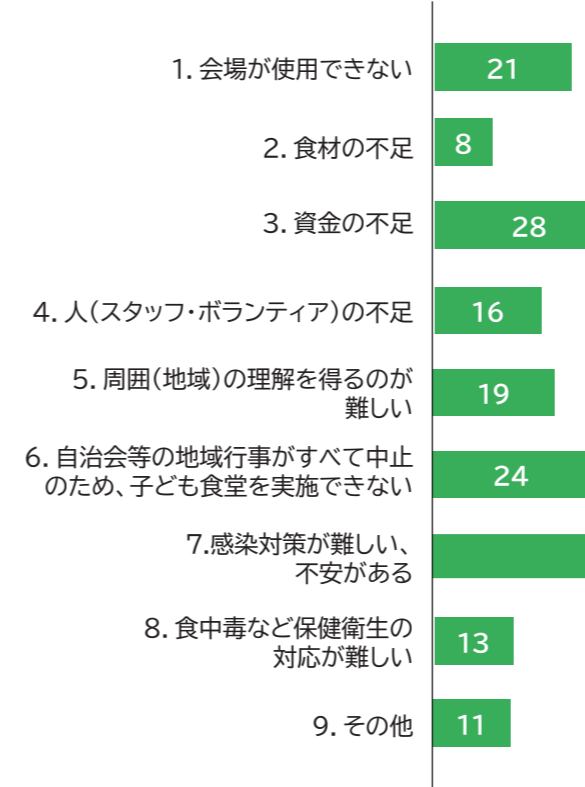
- お弁当のパック代等がプラスになったが、食数が減ったため、全体として変わらない
- 開催にあたっての大きな変化がない

3. 減った

- 食事の提供がなくなったため
- 人数を制限している、または参加者が減ったため
- メニューを簡便にしたため
- 積極的な活動ができなくなったため

5 コロナ禍での困りごと

※複数回答可



〈具体的な内容〉

- コロナに対しての大人の強い警戒によって、ご参加を控えるご家族が多い。
- 地域の他の飲食を伴う活動が止まっている中、私たちが活動することに理解してもらえない。
- 持ち帰り容器が追加で必要となり、出費も増えてきた。
- 小学生が黙って食事するのが難しい。学校で我慢しているの、あまりうるさく言って嫌な気持ちを持って欲しくない。
- 開催してもいいのか中止にするべきか判断が難しい
- 目に見えない影響に対して、どの様に何処まで消毒などをすれば良いのか。
- スタッフが高齢者が多いため、感染リスク管理が難しいです。
- 行政施設を借りているため、その意向で会場が閉鎖されると開催できない。
- どのような取り組みが子どもたちへの支援につながるのかわからない。

6 コロナ禍での子ども食堂について

※自由記述
※一部抜粋・編集をしています。

○どんな時にでもマスク、消毒、手洗いは忘れず実施。三密に特に気を使っているところです。早く終息するのを待つのみです。

○子どもたちにとって、楽しい学校や地域の行事や部活動などが中止になり、子どもたちにとっては我慢を強いられる厳しい状況が1年も続いています。様々な年齢の子どもたちが集い、体に触れたり、大声で笑いあったり、テーブルを囲んで食事をしたり、誰にも評価をされずありのままの自分でいられる場所が子ども食堂だと思っています。ある程度の制約が課せられているとは言え、子どもたちにとっては楽しみになっている場の一つだと思います。また食に欠ける子どもにとってはお腹いっぱい食べられる場。その場がなくなることは厳しいので、フードドライブの食材を届けたり、昼食と一緒に食べる機会を作ったりしてサポートしています。一刻も早く元の形で月3回開催したい思いはあります。今は毎回感染の不安と背中合わせにありながら、たとえば月1回でもできる形で開催したいと思っています。

○早く気を使わずお声掛けが出来るようになると良いです。

○コロナ禍だからこそ、子どもとおとなのつながりを深めることの大切さを感じている。精神的な閉塞感を和らげるとともに、少しでも子どものいる家庭を応援したい。

○みんなで集まってワイワイ、はしゃいで食べたり遊んだり、元気をもらえるのが子ども食堂の大きな力。それがタブーの今 本当に辛い。特に私たちの子ども食堂では、食の保障以上に、様々な出会いを通してみんなでつながることで笑顔・元気・安心を大切にしていた。その活動に制限をかけなくては、ならない。仕方のない事とわかっていても簡単にはあきらめられない。でも、めげずに、その事も楽しみに変え、そこからやれる方法を生み出し、やるのがうち流です。新たなチャレンジの始まりです。

○コロナに対する不安が大きく外に出る機会を失い孤独になっている人が増えている。今だからこそホッとできる場所、お腹を栄養で満たせる場所が必要だと思います。

○子ども食堂なのに、購入したお弁当だけでは味気なく感じる時があります。提供頂いたものを配布し子どもの笑顔が見れると嬉しいです。